



中部大学春日丘高校 SGH課題研究

グローバル課題研究：カリキュラムF（政策提言発表）について

● カリキュラムF（政策提言）の概要

国際コースの第3学年（32名）は、第1・2学年時の「グローバル課題研究」の授業・ゼミ活動を通じて「個人研究テーマ」に関する日本語と英語の論文を2年時に完成しています。そして第3学年の1学期にクラス（32名）内の選考を行い、4つの代表個人テーマを選びました。1学期の「グローバル課題研究」の授業では、その成果報告の準備を班単位で行い、3カ年の探究学習の集大成として、生徒たち自身が探し出した訪問先に成果報告をしました。

● 3年1学期「グローバル課題研究」の実践報告（合計20時間）

	タイトル（時間）	所要時間
1	<p>*各個人で論文を読み直し、政策提言マップを作成する。政策提言マップの観点項目は「社会背景と克服したい課題」「課題の克服によるメリット」「課題克服のためのアクションプラン」など</p> <p>*政策提言の発表、代表班（4班）作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人プレゼンテーション発表、評価、質疑応答内容作成 ・プレゼンテーションは5分、質疑応答3分（9班×8分＝72分） ・評価観点は、ルーブリック評価（プレゼンテーション） ・最も良かった4人を選び、4人の研究をベースに4班を編成する。選ばれなかった生徒は自分のやりたいテーマを選び、その班員となる。 	4時間
2	<p>*政策提言（ビジネスプラン）作成における観点を専門家から学ぶ</p> <p>講師：日本政策金融公庫 名古屋創業支援センター上席所長代理 仲保吉正氏</p>	2時間
3	<p>*パワーポイント・原稿作成</p> <p>政策提言マップ（①社会背景と克服したい課題、②課題の克服によるメリット、③課題克服のためのアクションプラン など）をもとに、班で協力してパワーポイント・原稿の作成する。</p> <p>*政策提言発表先の選定</p> <p>自分たちの発表先を、班ごとで探す。</p>	14時間

● 訪問先、訪問日、報告内容

	訪問先・部署・担当	訪問人数	発表内容（テーマ）
1班	春日井市役所：中井さん	5	外国人労働者
2班	春日井市役所：今田さん	4	教育とデジタルゲーム
3班	フリー：古澤さん	4	インドネシアへプリクラを
4班	豊田市役所：内藤さん	5	鹿問題

● 紹介

4班の中で最も良かった班の報告「日本の外国人労働者受け入れ政策」を紹介します。なお、この班の研究内容を、9月30日（土）に行われた「2017学園連携フォーラム」で発表し、SGH活動3カ年の最後の活動となりました。

平成29年度 グローバル課題研究 最終発表報告書 (3年国際コース)

1 研究発表者 (氏名)
福山枝実、宇都宮花梨、小島沙英、橋本京香、安江美咲
2 発表日時、発表先 (会社、役所名、部署、担当者のお名前)
平成29年8月17日 (木) 発表先：春日井市役所 担当者：中井基之さん、勝伸博さん、林朋晶さん
3 発表内容 (要旨)
日本ではここ数年で外国人労働者が増加し、その数は90万に上るが、一方で国内では少子高齢化が進行し、人口は減少傾向にある。2060年には高齢化率は40%を超え、この高齢化は労働人口の減少を招くと考えられる。日本は外国人労働者の受け入れに対して慎重な態度をとっているが、労働人口不足に対応するためには今後外国人労働者を受け入れていく必要があるだろう。外国人労働者の受け入れにおいては安価な賃金での雇用や日本国内の視野の広がり、労働力の確保による国力の維持などさまざまな利点があげられる。現状として日本は単純労働者よりも知識や技術をもった労働者を多く受け入れている。しかし受け入れの体制は不十分で日本人が外国人労働力を不当に利用し、反対に地域社会になじめない欲求不満や孤独感から外国人労働者が犯罪に関与するケースも少なくない。外国人労働者が安心して日本で暮らすためには外国人と日本人との間で情報交換や異文化交流の機会を増やす必要がある。具体的には広告や回覧板、SNSなどで多くの人に情報提供し、エスニック料理教室、健康体操教室、外国人との一日ホームステイなどがあげられる。外国人と日本人が互いの文化や価値観を共有することで相互理解が深まり、よりよい地域社会の実現をすることができるのではないだろうか。
4 ご助言
<ul style="list-style-type: none"> ・市役所では「異文化」は主観的見方、「多文化」は客観的見方であると考えている。使い分けの必要があるかもしれない。 ・発表先によっては「外国人労働者の賃金が安い」という表現は偏見を生んでしまうため、避けた方が良い。 ・技術者や知識のある労働者であれば、そもそも低賃金ではないだろう。また、そのような人たちは日本ではなく、より条件の良い国で働くため、一概に多いとは言えない。 ・少子高齢化から国を守るのなら、国力を追い求める必要はないのではないかと。 ・具体的解決策の案は良いがコストがかかる。また誰がその働きかけをするか主語を明確にする必要がある。
5 気づいたこと、今後こうしたいと思ったことなど
職員の皆さんは「どうぞジョアでも」と勧められ、リラックスした雰囲気での話をすることができた。そして海外の話合いの場では、飲み物やお菓子が置かれ、何気ない会話の中で生まれるアイデアを大切にしていることを話していただいた。今回のテーマは今後グローバル化が進むにつれて必然的に身近になっていくのだろう。海外のやり方を取り入れてみる、他文化をまるごと受け入れてみるという柔軟さがこのテーマを考える上で重要になってくるのだと思った。私たちの中には海外へ留学をする人も出てくるだろう。身近に外国人がいたらその人の文化を認め尊重する。自分が留学をしたらその郷に従う。そのような意識をもてる柔軟さをいつも忘れないようにしたいと思った。



●春日井市役所、豊田市役所、フリーー (株) の方々、訪問発表にお時間を割いていただき、ありがとうございました。